

05

施設整備費(本設費用)の試算

〈施設整備費のポイント〉

- すでに使われている施設を今後も使っていくための更新・改修のみを実施し、大会のためだけの新しい施設は設けない計画とします

オリンピック・パラリンピックの夏季大会と冬季大会では、競技数や会場数、参加選手数といった大会の規模が大きく異なります。さらに現在の計画では、都心の近くでウィンタースポーツを楽しめるという札幌の特徴を活かし、できる限り今ある施設を使用し、大会を実施することとしています。

現在、大会で使用を想定している施設の中には老朽化が進んでいるものもあり、これらの施設は大会の開催有無に関わらず、延命化や更新を行っていく必要があります。

今回の施設整備については、大会を契機により長く活用

できるような改修を想定しており、その費用として、770億円と試算しています。

札幌市が所有する施設の更新・改修については札幌市が実施し、現行制度に基づいて国の交付金等を活用していくことも想定しており、その場合の実質負担額は490億円と試算しています。

なお、大会のために整備し、大会終了後に撤去する整備費用は大会運営費(組織委員会予算)の仮設費に計上しています。

施設整備費合計	札幌市実質負担額
770億円	490億円

札幌市所有の施設の建て替えや改修のための費用として札幌市が負担(一般財源+市債)するもの

・主な施設整備・

【新月寒体育館】400億円(札幌市負担:220億円)

月寒体育館を建て替えることにより、プロスポーツの観戦環境を充実し、スポーツを「みる」機会を拡充する。

また、屋内スポーツの国際大会の誘致機会を拡大できるとともに、市民が利用できる環境を創出する。



【大倉山ジャンプ競技場】90億円(札幌市負担:90億円)

大倉山ジャンプ競技場にノーマルヒルを併設してリニューアルを行うことにより、国際大会の誘致を促進するとともに、観光施設としての魅力アップを図る。



【市営住宅月寒団地】190億円(札幌市負担:110億円)

月寒地区の市営住宅を集約して建替え、大会時には選手村として活用し、大会後に市営住宅として引き続き使用する。



各会場の施設整備費

○札幌市が独自に試算したもので、今後変更することがあります。

○施設ごとに10億円未満を四捨五入して記載しておりますが、10億円以下の施設については、億円で記載しているため、合計が一致していません。

単位:億円

会場	競技種目等	総額	札幌市	その他
			実質負担額	
【競技会場】				
西岡バイアスロン競技場	バイアスロン パラバイアスロン／パラクロスカントリースキー	2	0	2
長野市ボブスレー・リュージュパーク	ボブスレー・ボブスレー ボブスレー・スケルトン／リュージュ	0	0	0
月寒体育館	カーリング 車いすカーリング	0	0	0
新月寒体育館	アイスホッケー 1 パラアイスホッケー	400	220	180
真駒内公園屋内競技場	アイスホッケー 2	4	0	4
スポーツ交流施設コミュニティドーム(つどむ)	スケート・フィギュアスケート スケート・ショートトラック	1	1	0
帯広の森屋内スピードスケート場	スケート・スピードスケート	0	0	0
大倉山ジャンプ競技場	スキー・ジャンプ スキー・ノルディック複合ジャンプ	90	90	0
白旗山競技場	スキー・クロスカントリースキー スキー・ノルディック複合クロスカントリー	7	7	0
ニセコエリア	スキー・アルペンスキー(滑降、スーパー大回転、複合) パラアルペンスキー	0	0	0
サッポロティネススキー場	スキー・アルペンスキー(大回転、回転)	0	0	0
札幌国際スキー場	スキー・フリースタイルスキー／スキー・スノーボード (スロープスタイル、パラレル大回転、クロス) パラスノーボード	0	0	0
さっぽろばんけいスキー場	スキー・フリースタイルスキー／スキー・スノーボード (ハーフパイプ、モーグル、エアリアル)	0	0	0
市内既存施設	スキー・フリースタイルスキー／スキー・スノーボード (ビッグエア)	0	0	0
【非競技会場】				
札幌ドーム	開会式／閉会式／メダルプラザ	20	10	10
札幌コンベンションセンター	メインプレスセンター	0	0	0
新展示場	国際放送センター	0	0	0
市営住宅月寒団地	選手村	190	110	80
アパホテル＆リゾート〈札幌〉	選手村	0	0	0
【用地取得】※交渉中のため内訳は非公表				
用地取得		60	50	10
合 計		770	490	280

大会運営費(組織委員会予算)の試算

〈大会運営費(組織委員会予算)で考慮するポイント〉

- 原則、税金は投入しない計画とします
- 不測の事態への対応のため、予備費を確保します
- 収入に見合った効率的な大会運営に努めます

大会の運営に要する経費は組織委員会が集めた収入でまかなうものとしており、その予算はおおよそ2,200～2,400億円と試算しています。

収入はIOCの負担金やスポンサー収入、チケット売上収入等で構成され、原則、税金は投入されず、民間資金による収入でまかなう計画とします。

支出はセキュリティや輸送、宿泊に要する費用や観客席の一時的な増設といった仮設費用等を見込んでいます。

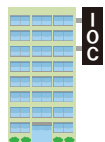
さらに、東京2020大会における新型コロナウイルスへの対応等、不測の事態に対する予備費を見込んでいます。

札幌市はこれまで、3度の冬季アジア競技大会をはじめとする冬季競技の国際競技大会の開催に携わり、大規模スポーツイベントの運営ノウハウを蓄積してきました。その経験を存分に活用し、収入に見合った大会運営を行っていくことを基本として、今後も費用の削減に向けた検討を進めていきます。

国内・国外

収入 2,200～2,400億円

【IOC負担金・TOPスポンサー収入】



920億円

IOCが契約している放映権料などの収入やTOPスポンサー収入を組織委員会に配分され、2026招致プロセスをもとに積算。

【国内スポンサー収入】



800～1,000億円

各スポンサーがオリンピック・パラリンピックの価値に共感して提供。協賛金と現物支給がある。過去の冬季大会の実績値を参考に積算。

【チケット収入】



240億円

競技観戦チケットの売り上げで、札幌大会の会場や収容人数から積算。

【ライセンス収入・その他】



240億円

グッズ販売などにより得られるライセンス収入、寄付など過去大会を参考に積算。

組織委員会

開催地

支出 2,200～2,400億円

【仮設費】



630億円

- ・屋外競技の仮設照明設置
- ・仮設のユニットハウス、テント設置
- ・仮設観客席の設置
- ➡大会後には撤去する一時的な増強

【その他運営費】

- ・セキュリティ(会場の警備など)費用
- ・組織委員会職員の人件費
- ・開閉会式や聖火リレーなどの式典費
- ・通信インフラの構築やシステムの更新費
- ・大会関係者の輸送費
- ・組織委員会の組織管理 など



1,370億円

【予備費】

200～400億円

- ・不測の事態の備え

国内外から集まるお金で大会を開催し、北海道・札幌市での消費が促進



大会の運営に要する経費

○札幌市が独自に試算したもので、今後変更することがあります。

収入

単位:億円

項目	金額
IOC負担金	640
TOPスポンサー収入	280
国内スポンサー収入	800～1,000
チケット売上	240
ライセンシング	90
その他	150
合計	2,200～2,400

支出

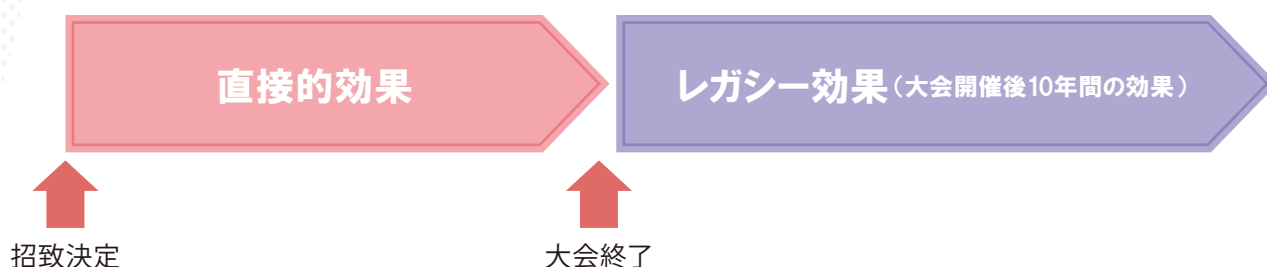
単位:億円

項目	金額
会場インフラ	750
—仮設費	630
—エネルギー	120
競技大会、大会サービス及び運営	510
—宿泊、医療、セキュリティ、輸送等	
テクノロジー	250
人材管理	160
式典及び文化	30
コミュニケーション、マーケティング及びブルック	60
組織運営及びレガシー	80
その他(マーケティングロイヤリティ含む)	160
予備費	200～400
合計	2,200～2,400

経済波及効果

経済波及効果について

- 専門家の意見を踏まえながら、オリンピック・パラリンピックの開催に関わる投資や支出により発生する需要増加額（施設整備費・大会運営費及び消費支出額）を整理した上で、札幌市及び北海道の平成27年度産業連関表を使用し、各種効果を札幌市が推計したものです。
- 経済波及効果には、招致決定から大会終了までの「直接的効果」と、大会開催をきっかけとした観光客の継続的な増加等による「レガシー効果」があります。



1. 直接的効果（招致決定から大会終了までの効果）

需要増加額（施設整備費・大会運営費・消費支出額）を用いて大会を実施した場合、

約7,500億円（札幌市内分は約3,500億円）の直接的効果

【需要増加額】

**施設整備費
770億円**

**大会運営費
2,200億円**

**消費支出額※
470億円**

※消費支出額：観客、選手、メディア関係者等が消費する支出額のこと

	生産誘発額 (需要増加によってもたらされる生産活動の総額)	粗付加価値誘発額 (生産活動によって生み出された所得額)	雇用効果
全国	約7,500億円	約3,500億円	約55,000人
北海道	約4,500億円	約2,500億円	約35,000人
札幌	約3,500億円	約2,000億円	約25,000人

○札幌市が独自に推計したもので、今後変更することがあります。



2. レガシー効果（大会開催後10年間の効果）

大会開催により、日本・北海道・札幌の認知度が向上し、開催後も観光消費額などの増加が見込まれます。

大会開催による認知度向上によるインバウンド観光客の増加、
食品輸出額の増加、新規施設によって生み出される支出額の増加により

約2兆5,000億円（札幌市内分は約4,000億円）の経済波及効果

【レガシー効果の需要増加額】

観光消費額増
1兆750億円

食品輸出額増
1,500億円

新規施設が
生み出す支出額増
450億円



	生産誘発額 (需要増加によってもたらされる生産活動の総額)	粗付加価値誘発額 (生産活動によって生み出された所得額)	雇用効果
全国	約2兆5,000億円	約1兆2,500億円	約230,000人
北海道	約1兆4,000億円	約7,000億円	約130,000人
札幌	約4,000億円	約2,000億円	約40,000人

○札幌市が独自に推計したもので、今後変更することがあります。

- 大会の開催により札幌、北海道のイメージが様々なメディアを通じて世界中に広がり、飛躍的に認知度が向上。
- インバウンド旅行客の増加やそれに伴って増加が期待される道内からの食品輸出額の増加などによりさらなる経済効果が期待できる。

開催地決定までのフロー

❁ 2030年大会開催地決定までの道のり

大会招致のプロセスは、東京大会を含めて、IOCの総会でプレゼンテーションを行い、IOC委員からより多くの票を得た都市が開催都市として決定されるという、いわば招致レースが繰り広げられるものでした。

しかし、持続可能なオリンピック・パラリンピックの実現に向けて、2019年6月のIOC総会で大幅な改革が行われ、招致のプロセスにも変更がありました。

これにより、IOC内部に設置された「将来開催地委員会」と大会の開催に関心を持つ都市が、招致年次を定めずに協議する「継続的な対話」を経た後に、「将来開催地委員会」の提案に基づきIOC理事会で優先候補地とされた都市が、招致年次を定めた「狙いを定めた対話」に移ることとなります。

そして、「狙いを定めた対話」に移行した都市は、開催地となるために必要な要件を整えた後、IOC総会で開催地として決定されることとなりました。

現在、札幌市はIOCと「継続的な対話」を行っているところですが、今後は将来開催地委員会やIOC理事会の判断により、「狙いを定めた対話」に移行します。

「狙いを定めた対話」では、これまで検討してきた大会計画をもとに、将来開催地質問状の回答や各種保証書を提出し、2023年9月～10月に開催されるIOC総会において、2030年大会の開催地が決定する予定です。

なお、開催都市契約の内容についても、この過程の中でIOCと協議していく予定です。



透明性・公正性の確保

❁ 透明性・公正性の高い組織運営の実現に向けて

北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

札幌市とJOCは、IOCが定めた新しいプロセスのもと、2020年1月(令和2年1月29日)に開催したJOC第8回理事会において札幌市を冬季大会の候補都市とすることを決定してから招致の活動を進めてきました。この新しいプロセスは、従来と比べて、より簡潔でコストがかからず、また、候補都市にとってより有意義な大会計画作りに資するものとなっています。

国内においては、より多くの方々にこの招致活動についてご理解いただき、応援していただくため、2022年5月に札幌市とJOCで北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会を設置し、議論を重ねています。7月に開催した第3回会議においては、様々な困難を乗り越えて開催された東京2020大会のレガシーを引き継ぐとともに、東京2020大会の教訓を今後の計画に生かすため、東京2020大会組織委員会の経験についてヒアリングを行い、議論を行いました。

こうした中で東京2020大会組織委員会の元理事が受託収賄容疑で逮捕される事案が発覚しました。この事案は、東京2020大会組織委員会に関する事案であり、現在の招致活動とは直接の関係はありませんが、招致活動に取り組む我々は、本件によりオリンピック・パラリンピック全体のイメージが大きく損なわれていることを十分に認識する必要があります。

IOCは、2021年3月に公表したオリンピックアジェンダ2020+5においても、更にオリンピック・パラリンピック競技大会の在り方を大きく見直し、持続可能性への配慮、既存施設の活用促進、簡素な会場計画やサービス規模の適正化を通じたコスト削減等、効率的な大会運営を提言しました。こうした考え方のもと、国内においても開催地となる札幌市のまちづくりの方向性を踏まえた計画の策定を進めています。

しかし、こうした取り組みも、大会の準備を担う組織の運営面における透明性・公正性なくしては理解を得られません。本年8月25日に開催したJOCの第3回理事会においても、招致活動継続の意義は疑うところはないものの、理解を得るためには運営面における改革に取り組み、透明性・公正性をしっかりと示していくことが必要であることが指摘されました。

今回の事案はまだ捜査中であるものの、招致の主体となるJOCと札幌市としては、事実関係の認定の如何に関わらず、この機会に組織運営の在り方をしっかりと議論する必要があると考えております。オリンピック・パラリンピック競技大会はその性質上、多くの関係者に支えられて成り立っており、対外的な説明責任を果たすための体制を整えることが不可欠となります。そうした観点から、IOCの「Basic Universal Principles of Good Governance (良好なガバナンスの基本的・普遍的原則)」(以下「IOCガバナンス原則」という。)及びスポーツ庁の「スポーツ団体ガバナンスコード」が掲げる指針に照らして、少なくとも以下の事項について検討してまいります。

(1) 組織委員会理事会について

理事会の役割についてはその重要性に鑑み、IOCガバナンス原則及びスポーツ団体ガバナンスコードにおいて多くの記述があります。札幌での大会開催が決定し、組織委員会を立ち上げる際には、改めてこれらの指針に立ち返り、体制を整備していくことが必要と考えています。具体的には、適正な理事会の規模の確保、理事会の役割の明確化、役員候補者選定委員会による役員の選考等を検討してまいります。

(2) 利益相反取引の管理について

大会は多くのステークホルダーの協力によってはじめて実施が可能であり、利益相反取引を管理することが、組織運営の公正性を担保する上で不可欠であることから、利益相反に関する考え方の明確化(ポリシーの策定等)及び利益相反取引の管理の体制の整備(委員会の設置等)を検討してまいります。

(3) マーケティング事業の在り方について

大会は、多くの企業の皆様からの協賛によって初めて成り立ちうるものであり、北海道・札幌2030大会の計画も、大会運営に係る資金はすべて民間資金を充てることを想定しています。大会までの限られた時間でスポンサーを集中的、そして確実に募集・決定しなければならない中、どのような体制が適切であるのか、広告代理店の役割をどう考えるのかや、マーケティング事業における組織委員会としての意思決定プロセスの在り方等についても検討してまいります。

今後、北海道・札幌2030招致が成功した場合には、事案の推移も踏まえつつ、より具体的な対応案を検討する必要があると考えています。これについてはより多くのステークホルダーを巻き込んだ議論が必要となることから、関係機関と相談しながら検討体制を整備してまいります。

開催決定前の招致段階においてできることは限られていますが、引き続き大会開催の意義をご理解いただけるよう、市民・道民・国民向けの丁寧な説明を実施することはこれまで以上に重要であり、しっかりと取り組んでまいります。

2022年9月8日

公益財団法人日本オリンピック委員会会長

札幌市長

山下泰祐

秋元克広

東京2020大会組織委員会元理事の汚職事案を受け、2022年(令和4年)9月8日、札幌市は、JOCとの連名で、大会の組織及び運営面における改革に取り組んでいく決意を示す宣言を行いました。

また、同年10月17日には、スポーツ庁主催の会議において、今後の大規模な国際競技大会等の円滑な開催に向けた取組みをスポーツ界全体で進めていくこととなりました。

今後、スポーツ団体や専門家による透明性・公正性の高い組織運営の実現に向けた検討に、札幌市として積極的に協力していくとともに、市民・道民・国民への丁寧な説明に引き続きしっかりと取り組んでまいります。

若い世代からの 100のアイデア



2022年3月の意向調査では若年層から高い支持を得る一方で、「わからない」と答えた人の割合も高いことから、10～20代の若い世代をターゲットとして、開催意義や将来のまちの姿について議論するワークショップを行いました。そこで得られた意見をこのページで紹介します。

※計18回(14団体、391名)のワークショップを実施

※参加団体:札幌医科大学、北星学園大学、北海学園大学、札幌大学、北海道大学、札幌市立大学、札幌国際大学、東海大学、札幌ファッションデザイン専門学校DOREME、北海道スポーツ専門学校、北海道情報専門学校、経専北海道観光専門学校、北陸銀行琴似支店、YOSAKOIソーラン祭り組織委員会(順不同)

多様なまち歩きツアーで
「健康づくり×観光」

アスリートの
セカンドキャリアを
全力応援する街

スポーツ医療の普及で、
スポーツを長く楽しめる街

健常者も楽しめる
障がい者スポーツの考案

札幌発祥の
スポーツ競技の
授業や大会がある

アスリートのスポンサー
企業数、国内No.1

AIによる画像診断で、
予防医療の先進地に

札幌限定の祝日・
ウィンタースポーツの日
が制定

ウィンタースポーツ用品の
公的レンタル制度

学生運動部の遠征費に
対する助成制度がある

子供からシニアまで!
スポーツ体験VR施設が人気

スポーツ・健康

シニアもスポーツで輝く!
マスターリーグ開幕

冬季版
ナショナル
トレーニングセンター、
札幌にOPEN!

eスポーツ振興!
プロゲーマーの聖地と称される

ウィンタースポーツ版
“甲子園”イベントを
札幌に

市公認歩数アプリ!
電子ポイント「spoint」獲得

チカホに、
ランニング
専用レーン!

ボーリング気分で、
ちょっと気軽にカーリング

遠隔医療のハブシティ!
地方都市の健康も支える

医療機関とスポーツジムの連携で、
健康寿命延伸

ココロの健康にフォーカスした
施設・教育の充実を

スポーツ用品専門の
グッドデザイン賞が生まれる

「運動→食事→ととのう」が
叶う公共施設完成

ウィンタースポーツ観点で、
姉妹都市提携を増やす

雪を融かす
人工芝の実用化で、
スポーツ人口増

歴史的建造物の改装・活用に
積極的な街

高層ビルが橋でつながり、
空中歩行者天国が実現

2030都市構想
「地下を高層ビル化、
地上には緑を」

エコ移動を推進！
自転車専用レーンを縦横無尽に

起業への特別助成！
起業率、国内トップクラスに

北国ならではの
ファッショントレンドを世界に！

北の自然を生かした
テーマパーク施設が
人気！

凍結しない線路を開発！
さようなら遅延

本社を東京から札幌に！
そんなベンチャー続々

アイヌ文様を
モチーフにした
ファッションブランド

空飛ぶ
ドローンタクシー、
札幌上空に現る

垂直離発着式「札幌空港」の
竣工、空旅をより身近に

学生考案の新機軸
B級グルメが、観光客を呼ぶ

市民クラファンで、
公園整備が進む

経済・まちづくり

がっかり名所の汚名返上！
時計台移転しちゃう？！

地熱活用！
幹線道路に
ロードヒーティング

ふるさと納税の返礼に
NFTアートなど特別感を

観光しながら働く！
ワーケーションの
聖地となる

冬、大通公園の
噴水は足湯に
衣替え

多国籍街で、料理や文化の
多様性をEnjoyできる

公園をインスタレーション・
アートに積極開放

引きこもりだって強みに！
仕事の選択肢が充実

市電の
完全自動化で、
24時間運航を
実現

地下鉄の環状化に現実味？！
もっと雪に強い街

空き家の無償貸与で、
お試し移住者のバックアップ

若い世代からの 100のアイデア



市内全駅に
エレベーター完備

子連れWelcome!
そんな飲食店こそ高評価

子供の安全、
ドローンが見守ります

街中に学習スペースが点在!
文教の街

点字ブロックが
無線通信で道案内



飼い犬と公共交通機関!
だってしつけ完璧

“目には見えない”
障がいに対する理解が深まる

若者の
福祉除雪に、
除雪エコポイントを
進呈

学ぶ意欲のある若者に、
機会の平等を保障

必要な人にだけ
聞こえる!
“音のなる”信号機を

ドローンで薬が届く街、
高齢者も障がい者も安心

子供の体験格差解消!
低所得世帯への育児支援

スマートコンタクトレンズ、
聴覚障がい者に無償提供

社 会

アーティストが選ぶ、
感性が冴える街No.1

もっと女性活用!
オフィス併設
保育園の整備

盲導犬OKエリアが、
どんな飲食店にも設置される

男性向け育児教育を推進!
育休取得率全国No.1

「ペットの殺処分ゼロ!」
を掲げた
保護施設の完成

第三の居場所(逃げ場)を
誰もが持てる社会

「不登校=学べない」は、
今や昔

同性婚?!
それってもう
普通のこと

ご近所と微笑み交わす街、
独居シニアも安心

出産するほど
住民税を軽減します!
出生率upの街

あらゆる多様性について学ぶ
課外授業を盛んに

髪色・ピアス・ネイル、
どんな個性も受容する街

大通周辺を、
ガソリン車乗り入れ
禁止エリアに

ビルの屋上・壁面緑化で、
“映える”市街地に

給食の
地産地消率50%超!
Co2削減を推進

電気自動車の普及率、
国内トップクラス

熊を害獣としない、
知恵や仕組みの確立

野鳥が訪れる庭造りへの
助成制度がある

学生プロデュース!
ホテル放流プロジェクト

My箸 Myストローなど、
My〇〇がカッコいい街

街路樹を市民が
育む仕組み(基金)を作ろう!

空気の
きれい度を、
数値や色で
見える化発信

カリキュラム
「野生動物の生態を学ぶ」を必修に

シェアサイクルのポート数、
100を超す

3R推進の回収BOXを
市内全域整備

空が
こんなにも近い!
無電柱化を一気に

環 境

ゴミ箱さえ
アートに!
ポイ捨てゼロの街

フードロス削減に積極的な
お店・企業に応援気運

10区で養蜂を競い、
Sapporo蜂蜜としてブランド化

自動ゴミ分別
システムにより、
未分別ゼロ社会へ!

食品廃棄の少ない飲食店、
エシカルレストランとして認証

市内のコンビニには、
コンポスト設置を推奨

エゾシカ
セレクトショップ!
命を100%活かす
啓蒙を

脱プラスチック!
学校給食は道産木工食器で

雪で発電?!
究極クリーンエネルギーで
ノーベル賞

エネルギーも地産地消!
札幌にエコ発電施設を建設

森林教育・ツアーを、
小さな頃から

私たちは2030年大会招致を応援しています

❄ 北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック招致応援大使

北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会のアスリート委員に「北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック招致応援大使」に就任していただき、大使個人のSNS等を活用した応援メッセージの発信や各種イベントへの出演などを通じて機運醸成をより一層推進していただきます。



2010バンクーバーパラリンピック
ノルディックスキー銀メダリスト

太田 渉子さん

生まれつき左手指がない私は右手1本でスキーをします。幼いときにパラスキーの選手の力強い滑りや速さを目の当たりにして度肝を抜かれました。

そして、先輩たちの背中を追いかけて、パラリンピックへの挑戦を通してスーパーヒーローと出会い、たくさんの素晴らしい経験をしました。

札幌・北海道で2030オリンピック・パラリンピックが開催されたら、日本中の子どもたちが世界のトップアスリートの試合を観戦したり、トップアスリートと交流できる素晴らしい機会になると信じてます。

私は小学校の体育の授業で初めてスピードスケートの靴を履きました。自分が将来この競技でオリンピックメダリストになるなんて思ってもいませんでしたが、ある時、冬季オリンピックを間近で観戦し、想像以上の凄さに鳥肌がたつを感じました。

そこから「オリンピックに出場したい!」と思うようになり着実に身体を作り上げ、諦めずに夢を追いかけて、叶える事が出来ました!

お子様からお年寄りの皆様方と一緒にドキドキしながら、会場でトップアスリートたちの激動を感じ応援し、勇気や感動を共有しながら共に歴史に残したいです。このチャンスを逃すのは勿体ない!子供たちの為にぜひとも北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック開催に期待しています。



1998長野オリンピック
スピードスケート銅メダリスト

岡崎 朋美さん



2010バンクーバー・2014ソチパラリンピック
アルペン金メダリスト

狩野 亮さん

私はテレビで長野パラリンピックの滑降競技を目にした時から、パラリンピックの世界を目指し競技者としてスタートを切りました。

そこから20数年間の競技生活で、最も感じたことは『人として成長』させてもらったことです。私自身は競技者としてのきっかけをもらいましたが、北海道・札幌で、もしオリ・パラが開催された時には、きっと皆さんにとっても多くの機会を手にする大会になるのではないかと思います。

様々なご意見があるとは思いますが、札幌大会が実現し開催された時には、関わって下さった皆さんが少しでも豊かな人生へと変わっている、そんな素晴らしい大会が北海道・札幌で実現できたら嬉しく思います。



2010バンクーバーパラリンピック
パラアイスホッケー銀メダリスト

永瀬 充さん

19歳の冬、病院のベッドの上で夢も目標も持てなかった私に大きな希望を与えてくれたのは、その3年後に開催される長野パラリンピックの存在でした。

パラリンピックは社会の多様性を考え、人間の可能性を感じることができる大会で、日本で開催された3大会を通し、大きな影響を与えてきました。

北海道・札幌で開催されることで、多くの人に勇気や希望を与え、誰もが暮らしやすい社会が変わっていきます。ぜひ、北海道・札幌大会を多くの人たちの力を合わせて実現し、成功させましょう！

私は1998年日本で開催された、長野オリンピックに出場しました。日本中の注目が長野に集まり、皆さんの熱い応援が大きな力となって、私達選手を後押ししてくれたと感じています。

北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックは、これまで積み上げてきた札幌の歴史を、次の50年先の新しい札幌につなげる為、大会開催をきっかけにし、市民一人一人がひとつになり、大きな力となって、次のステージへ上がるものと思います。

ぜひ、北海道のみなさんと一緒に2030年の北海道・札幌オリンピック・パラリンピックを実現したいです！



1998長野オリンピック
スキー・ジャンプ金メダリスト

原田 雅彦さん

私たちも2030年大会招致を応援しています



シンガーソングライター

大黒 摩季さん

アスリートの方々が魅せてくれる、人間が持つポテンシャル、勇気や情熱、希望、諦めずにやり抜くことの素晴らしさなどは、未来を担う子どもたちに情動的な成長を促します。

パラリンピックの開催は、バリアフリーをはじめ様々な環境開発・意識改革へのリテラシ

ーを高め、大会後には便利で理解ある社会が持続します。

2030年に大会を開催するという目標に向かって、街が一つになり、絆が生まれ、将来の街の発展に向かって、エネルギーで革新的な発想が生まれます。

愛する故郷が活性化し、さらに美しく、住みよく、便利になり、日本一、いえ世界に誇れる素晴らしい場所になるのをぜひ一緒に体感しませんか。



1998長野オリンピック
スピードスケート
金メダリスト

清水 宏保さん

ぼくは、1998年の長野大会で夢だった金メダルを獲ることができましたが、振り返ってみると本当に幸せな選手生活を送れたと思っています。

自国開催ということで、会場全体から多くの声援をもらい「力をもらった」、「背中を押しもらった」という感覚

が生まれたのを鮮明に覚えています。

そして、あれから約20年が経ちましたが、今でも多くの人の記憶に残してもらっていて本当にありがたいですし、もし札幌で冬季大会が開催されるのであれば、正直なところ「うらやましい」と感じます。

競技に励んでいるアスリートたちのためにも、ぜひ、2030年の大会を札幌で開催して欲しいと思います。

2030



世界が驚く、





冬にしよう。



みんなで
冬季オリンピック・
パラリンピックを
北海道・札幌に。

©アフロスポーツ/JOC



掲載の写真については、日本オリンピック委員会の許諾を得て使用しています。

札幌市の冬季オリンピック・パラリンピック招致に関する取組については
下記URLまたは右のQRコードからご覧ください

<https://www.city.sapporo.jp/sports/olympic/menu.html>

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です



令和4年(2022年)11月発行

編集・発行 札幌市スポーツ局招致推進部調整課

〒060-0002 札幌市中央区北2条西1丁目 ORE札幌ビル9階
TEL.011-211-3042 FAX.011-211-3048



さっぽろ市
01-E02-22-2105
R4-1-143